

教育部 身体領域チーム研修会のお知らせ

「上肢の関節可動域制限における制限因子の推察方法と運動療法」研修会

教育部 身体領域チーム 片岡 秀樹（第二東和会病院）

【講師より】

関節可動域の測定方法は、養成校時代に作業療法・理学療法評価法の中で習い、一生懸命練習して身につけました。では、制限因子の見つけ方は？ どのような所見が得られたら損傷・筋攣縮・伸張障害・滑走障害が起きていると判断していますか？ これらの質問に答えを出し、順を追って説明できるでしょうか？ 関節可動域運動は、作業療法士・理学療法士が最もよく実施する治療の1つでありながら、制限因子の見つけ方の枠組み、手順をしっかりと習ったという話はあまり耳にしません。制限因子の推察方法を学ぶ機会が全くなかった学生さんや若い療法士の方々は、病態に合わない、形だけの関節可動域運動を実施してしまい、良くならない患者さんを目の前に、どうしてよいかわからなくて悩む結果になってしまいます。治療方法を決定し、臨床における問題解決を図るためには、角度を計測するという「現状把握のための評価」にとどまらず、制限因子を推察するという「原因究明のための評価」が欠かせません。

「制限因子の推察」と言っても、知識を並べて憶測で物を言うのではなく、臨床所見という事実を揃えて述べるということが大切です。これは、私が知る一流の療法士の方々が、どのような手順・過程で評価を進めているかを分析しながら「1症例1症例を丁寧に診る」を続けてきた中で見つけた現時点での評価の基本部分です。

このセミナーでは、上肢の関節可動域制限が問題となった症例を通じ、機能解剖学的触診技術を用いて得られた臨床所見を比較・統合することで可動域制限の原因となる「どこの組織が？」「どのような病態か？」を推察し、病態に合った運動療法を実施できるようになることを目指しています。初めから「上手にする」ことは難しいと思いますが、「丁寧にする」は誰でもできます。「丁寧」は、細かいところまで注意が行き届いていることであり、相手を大切にやる心から生まれます。「患者さんを良くするために、丁寧に所見をとって原因を見つける」を実践してみませんか？

【内容】

1. 関節可動域制限における制限因子の推察方法
2. 両側手背部熱圧損傷後における伸筋腱再建術後の1症例(正常な運動軌跡での関節操作技術、リスク管理)
3. 三角骨骨折後における手関節背屈制限の1症例(滑走障害)
4. 肘頭骨折術後における肘関節屈曲制限の1症例(損傷)
5. 肩関節周囲炎における肩関節屈曲制限の1症例(筋攣縮・伸張障害)

開催日時：2019年9月15日（日）10時～16時（受付開始9時30分）

会場：大阪市立大学医学部附属病院 5階講堂

（〒545-8586 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-5-7）

アクセス：JR天王寺駅、大阪メトロ谷町線天王寺駅から徒歩9分

大阪メトロ御堂筋線天王寺駅から徒歩7分、動物園前駅から徒歩8分

講師：猪田 茂生先生（伊賀市立上野総合市民病院 理学療法士）

定員：80名程度

参加資格：日本作業療法士協会ならびに所属都道府県士会の2019年度会費納入者

※未納者については参加をお断りしています。ご了承ください。

- 受講費：1. 大阪府作業療法士会会員 3000円
2. 他府県作業療法士会会員 4000円
3. リハビリテーション関連職種 5000円
4. 非会員 10000円

生涯教育ポイント：2ポイント

申し込み方法：以下のメールアドレスを利用して申し込み下さい。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/bbf0f863627180>



申し込み締め切り：2019年8月31日(土)

キャンセル等：申込期間中は本研修会申込専用フォームから問い合わせ、キャンセル等をお願いします。申込終了後は、身体領域チームの専用メールアドレス「osakaotjigyoubu@yahoo.co.jp」へ研修会名、問い合わせやキャンセル等連絡者の所属氏名を必ず明記した上で内容を記載下さい。

返信について：参加の可否につきましては、9月9日（日）までに連絡予定です。

なお申し込みの際、誤ったメールアドレスをご登録頂いた場合は返信が出来ません。恐れ入りますが返信がない場合は再度上記専用メールアドレスまでご連絡頂きますよう、お願い申し上げます。